

ヨセフ

聖徒たちと歩む聖書 ~26~
ヨセフ その4

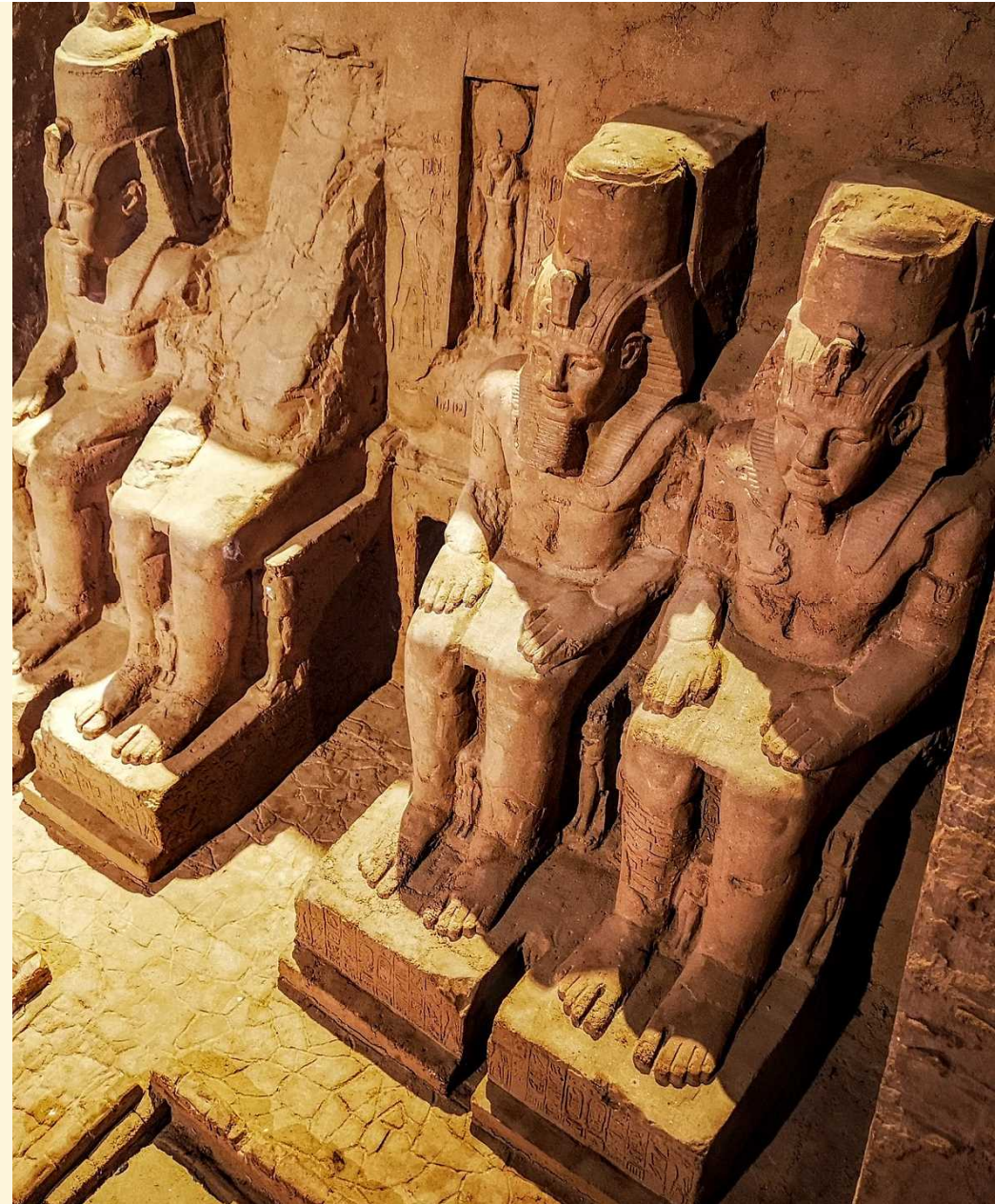
「主の約束を
生き抜いて」

創世記46~50章 12部族へのヤコブの遺言

【今日のアウトライン】

- 0. ふりかえり
- I. 父ヤコブとヨセフの再会
- II. イスラエルのエジプト移住
- III. ヨセフへの祝福
- IV. ヤコブの遺言
- V. ヤコブの葬儀 ヨセフの死
- VI. まとめと適用

神の約束を握りしめて
今この時を歩もう



0. ふりかえり



神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と 子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

この「アブラハム契約」は、
アブラハムから、イサク、
そして、ヤコブへと継承された。



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

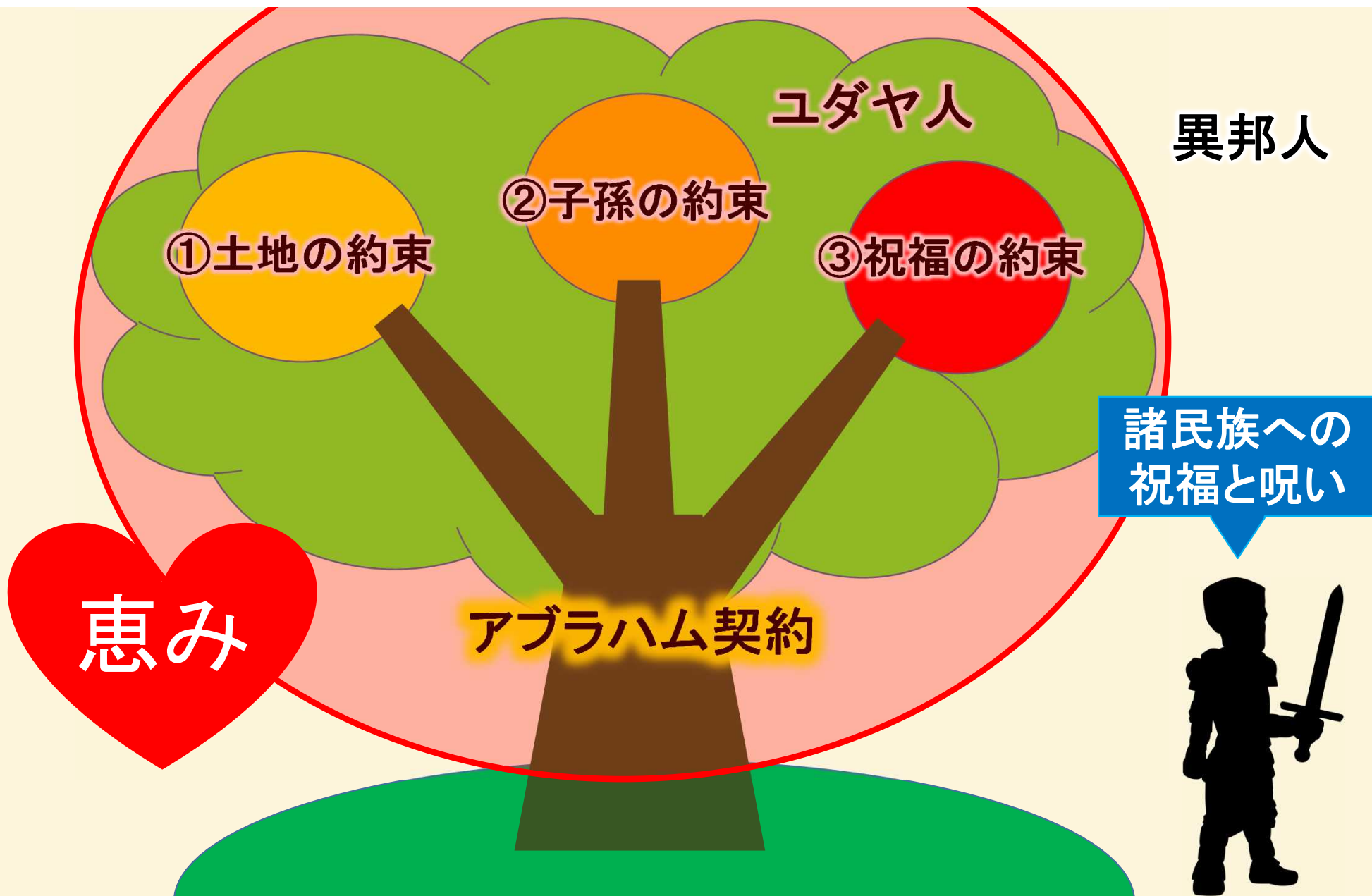
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

ヨセフのエジプトの日々も、
アブラハム契約のゆえに守られる!!



【アブラハム契約】



【トルドット・時代区分】

| | |
|--------------|--------------------------------------|
| ①2:4～4:26 | 「これは天と地が創造された時の <u>経緯</u> である」 |
| ②5:1～6:8 | 「これはアダムの <u>歴史</u> の記録である」 |
| ③6:9～ | 「これはノアの <u>歴史</u> である」 |
| ④10:1～ | 「これはノアの息子、セム、ハム、ヤペテの <u>歴史</u> である」 |
| ⑤11:10～ | 「これはセムの <u>歴史</u> である」 |
| ⑥11:27～ | 「これはテラの <u>歴史</u> である」 アブラハム編 |
| ⑦25:12～18 | 「これはイシュマエルの <u>歴史</u> である」 |
| ⑧25:19～35:29 | 「これはイサクの <u>歴史</u> である」 ヤコブ編 |
| ⑨36:1～8 | 「これはエサウ、すなわちエドムの <u>歴史</u> である」 |
| ⑩36:9～37:1 | 「これがセイルの産地にいたエドム人の先祖エサウの系図である。」 |
| ⑪37:2～50:26 | 「これはヤコブの <u>歴史</u> である」 ヨセフ編 |

【売られたヨセフ、墮落したユダ】 創世記37～38章

- ヤコブは、愛妻ラケルの姿形見、11番目のヨセフを長子扱いしていた。
- 嫉妬に燃えた兄たちは、ヨセフに殺意まで抱き、ユダの提案で、隊商に売り渡してしまった。
- ユダは墮落し、カナン人を妻とする。
神に裁かれて死んだ息子の嫁と関係を持ち、争いあって二人の子が生まれてきた。



【エジプトでのヨセフ】 創38～41章

- エジプトで奴隷となったヨセフは、13年後、パロの夢を解き明かし、7年の大豊作後の7年の大飢饉を警告。責任者として、No2の首相の座に登用された。
- 大飢饉の2年目。食糧を買いに来た兄たちと再会。ヨセフは正体を隠して、兄たちを試す。
- 盗人の容疑をかけられた末弟ベニヤミンをかばい、息子を失った父ヤコブの悲しみを切々と訴えたのは、ヨセフを売った、あのユダだった。
- もはや感情を抑えきれなくなったヨセフは名を明かす。兄たちを赦し、22年越しの和解が成し遂げられた。



【神の時の背景】 預言の成就 創15:13～14

「あなた(アブラハム)の子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。」

Q:ヨセフの物語の背後にある神の計画とは？

- 墮落したカナンに同化される危機にあった イスラエルを隔離し、一つの民族として育む。

およそ150年の時を経て、動き出した神の計画!!



I. 父ヤコブとエサウの再会

創世記46章



【神の呼びかけ】 創46:1

イスラエルは、彼に属するすべてのものといっしょに出発し、ベエル・シェバに来たとき、父イサクの神にいけにえをささげた。

神は、夜の幻の中でイスラエルに、「ヤコブよ、ヤコブよ」と言って呼ばれた。彼は答えた。「はい。ここにいます。」

- 約束の地を出る直前に捧げた礼拝で、
- 不安とためらいの中にいるヤコブに、
主が、愛情込めて語りかけられた。



【神の約束に守られて】 創 46:3～4

すると仰せられた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトに下ることを恐れるな。わたしはそこで、あなたを大いなる国民にするから。わたし自身があなたといっしょにエジプトに下り、また、わたし自身が必ずあなたを再び導き上る。ヨセフの手はあなたの目を閉じてくれるであろう。」

- アブラハムへの約束が、神の確かな保証。
- 異国での4百年の苦難と、民族の成長。
- 愛する息子に看取られての穏やかな死。

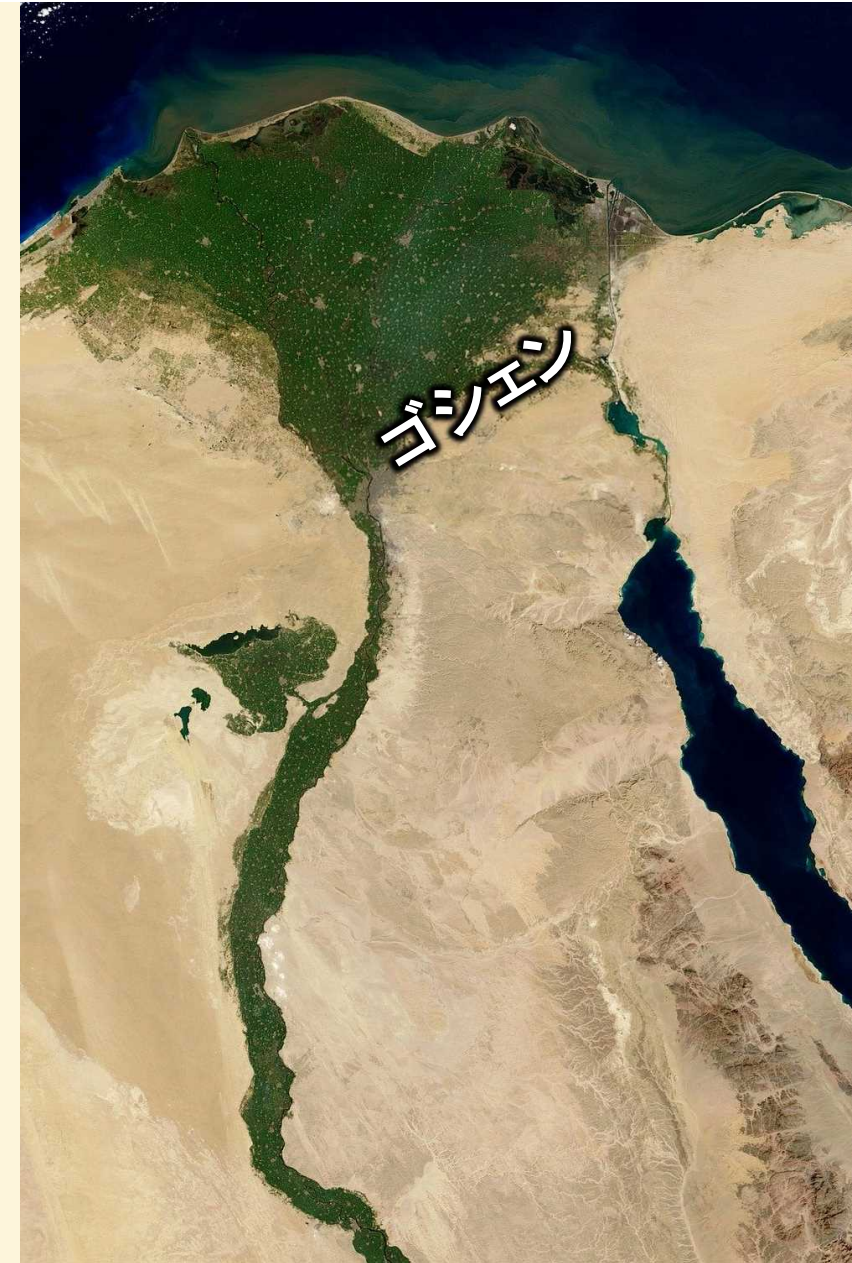


【エジプト移住】 創46:5～27

- ヤコブの12人の息子たちとその家族。
70人が、エジプトに移住した。
(※使徒7:14では75人。+ヨセフの孫5人?!)
- 僕たちなど加えると総勢で300名以上。

46:28 さて、ヤコブはユダを先にヨセフのところに遣わしてゴシェンへの道を示させた。それから彼らはゴシェンの地に行った。

*ゴシェン ...三角州地帯東部にある
牧畜に適した肥沃な地



【再会】 創46:29～30

ヨセフは車を整え、父イスラエルを迎えるためにゴシェンへ上った。そして父に会うなり、父の首に抱きつき、その首にすがって泣き続けた。イスラエルはヨセフに言った。「もう今、私は死んでもよい。この目であなたが生きているのを見たからには。」

- ヤコブにとって、最愛の妻ラケルの忘れ形見ヨセフとの再会。
- 22年ぶりの出来事だった。
(奴隷13年 + 大豊作7年 + 大飢饉2年目)
エジプトで首相となって9年目。



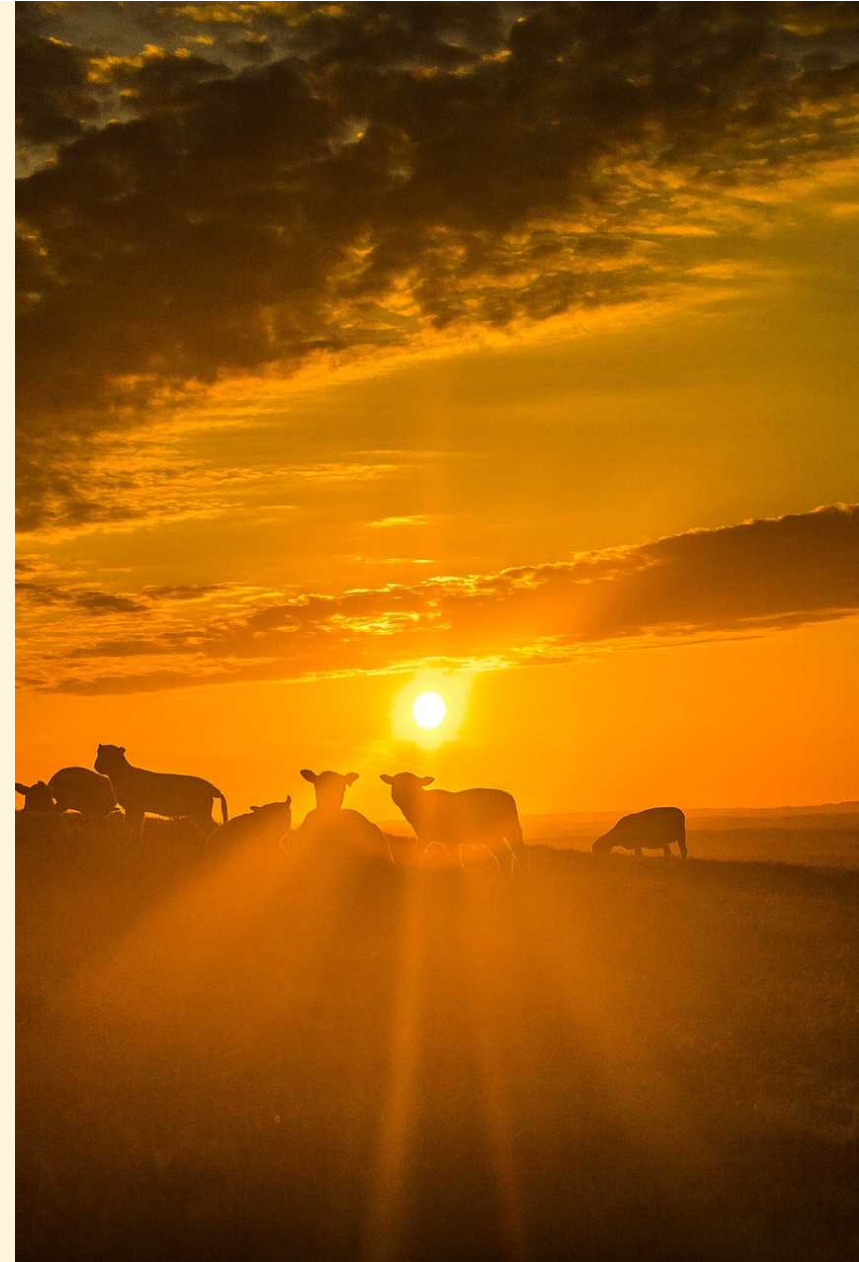
【ヨセフのアドバイス】 創46:31～34

■ヨセフは、父と兄たちに、パロの前で羊飼いと名乗るように進言した。

■ヨセフの意図

- ①エジプト文化から隔離されるため
⇒羊飼いは、疎まれる仕事だった。
- ②牧畜に最適な地を得るため
⇒ゴシェンの地に、このまま定住。

■エジプト文化の影響から守られつつ、繁栄し、子孫を増やしていくために!!
⇒アブラハムへの約束の実現のため!!
異国の4百年で民族に成長(創15:13～)



Ⅱ. イスラエルのエジプト移住

創世記47章

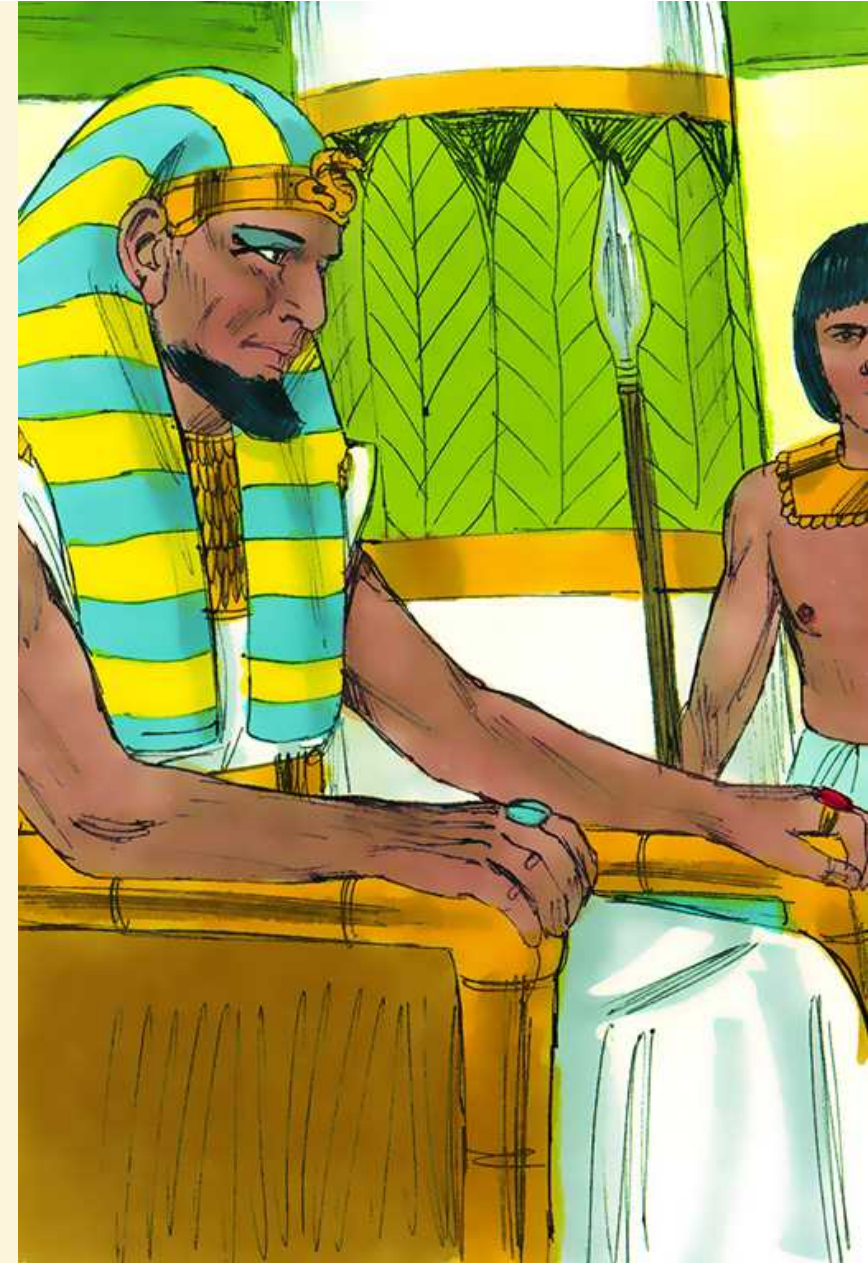


【パロとの謁見】 創47:1～

- ヤコブたちは、パロに謁見した。
- ヨセフの進言通り、羊飼いと名乗り、ゴシェンの地をあてがわれ、パロの家畜の世話も請け負うことに。

47:7 それから、ヨセフは父ヤコブを連れて来て、パロの前に立たせた。ヤコブはパロにあいさつした。*

* バラク ...ヤコブが、パロを“祝福した。”
⇒ 神の選びの民の使命



【パロとの会話】 創 47:8～9

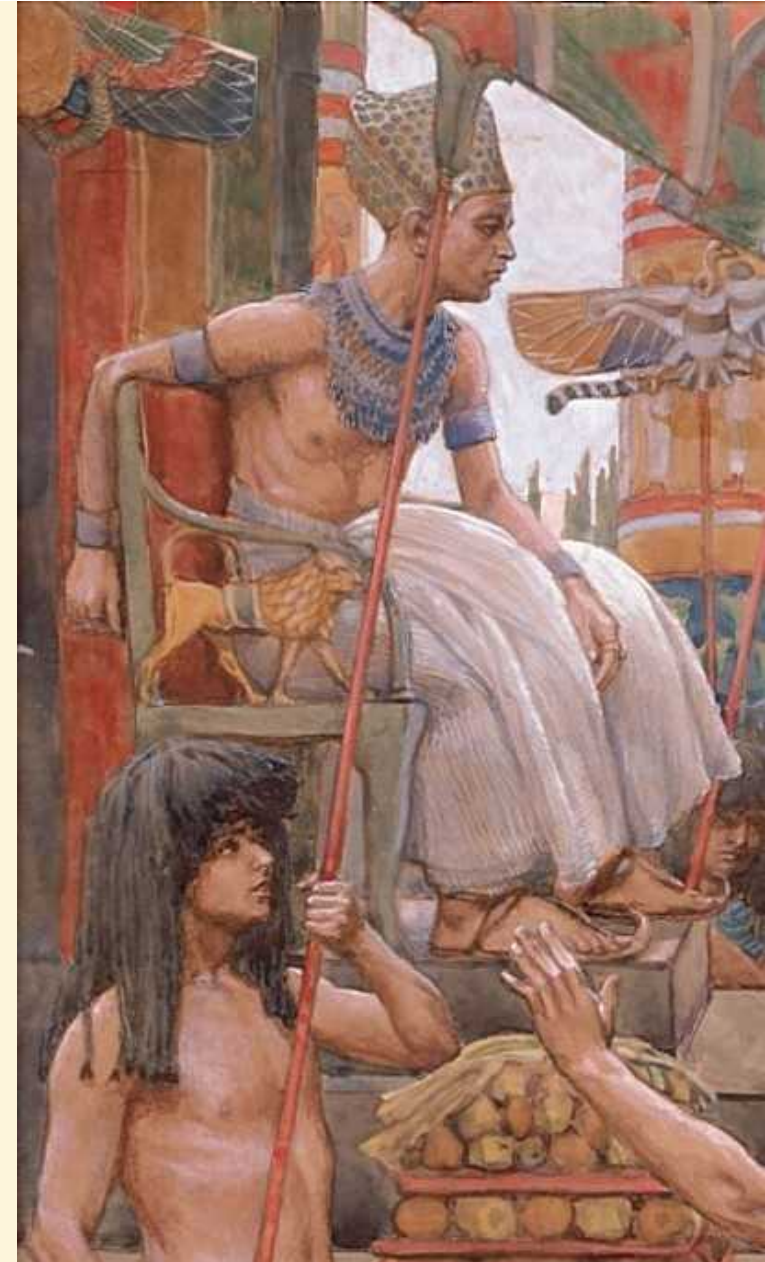
パロはヤコブに尋ねた。「あなたの年は、幾つになりますか。」 ヤコブはパロに答えた。「私のたどった年月は百三十年です。私の齡の年月はわずかで、ふしあわせで*、私の先祖のたどった齡の年月には及びません。」 ヤコブはパロにあいさつ(祝福)して、パロの前を立ち去った。

*ラー ...悪、災い。“苦しみ多く(新共同訳)”

■ 父イサクは、10年前に180歳で死去。

祖父アブラハムは、175歳。

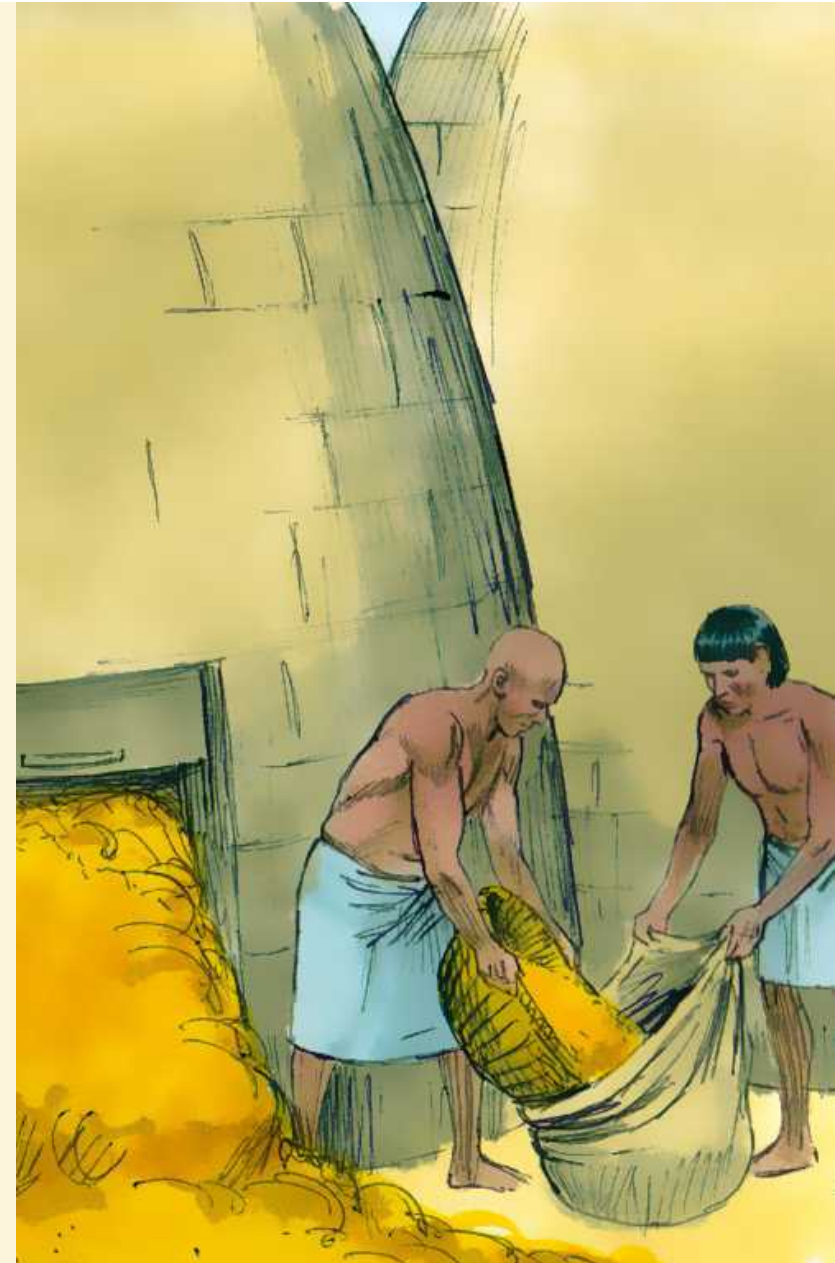
■ 苦難の日々の末に。パロを祝福するヤコブ。



【ゴシェンへの移住】 創47:11

ヨセフは、パロの命じたとおりに、彼の父と兄弟たちを住ませ、彼らにエジプトの地で最も良い地、ラメセスの地を所有として与えた。

- ゴシェンでも最良のラメセスを所有した。
⇒大飢饉の最中にも家畜を養い、安定した生活を送ることができた。
- 大飢饉は続き、人々は食糧を求めてエジプトに来た。パロの下に、エジプト、カナンの銀が集まった。
- 銀が尽きると、人々は家畜を手放した。



【エジプトの封建制度の確立】 創 47:17～

- ついに人々は農地を手放し、パロは全農地を手にした。
- 人々は小作人となり、収穫の5分の1をパロに納めた。
- 直接パロに仕えた祭司たちだけが、納税を免除された。

創 47:27 さて、イスラエルはエジプトの国でゴシェンの地に住んだ。彼らはそこに所有地を得、多くの子を生み、非常にふえた。

- イスラエルは、パロの奴隷になることなく、独立を保たれた。



【ヤコブの遺言】 創47:28

■ エジプトに来て17年を生き、147歳となったヤコブは、ヨセフを呼んで遺言を告げた。「もしあなたの心にかなうなら、どうかあなたの手を私のももの下に入れ*、私に愛と真実を尽くしてくれ。どうか私をエジプトの地に葬らないでくれ。私が先祖たちとともに眠りについたなら、私をエジプトから運び出して、先祖たちの墓に葬ってくれ。」

- * 生殖器を掴む、子孫にかけて神聖な誓い。
- ヤコブは、約束の地への埋葬を望み、ヨセフは、それに応えた。



Ⅲ. ヨセフへの祝福

創世記48章



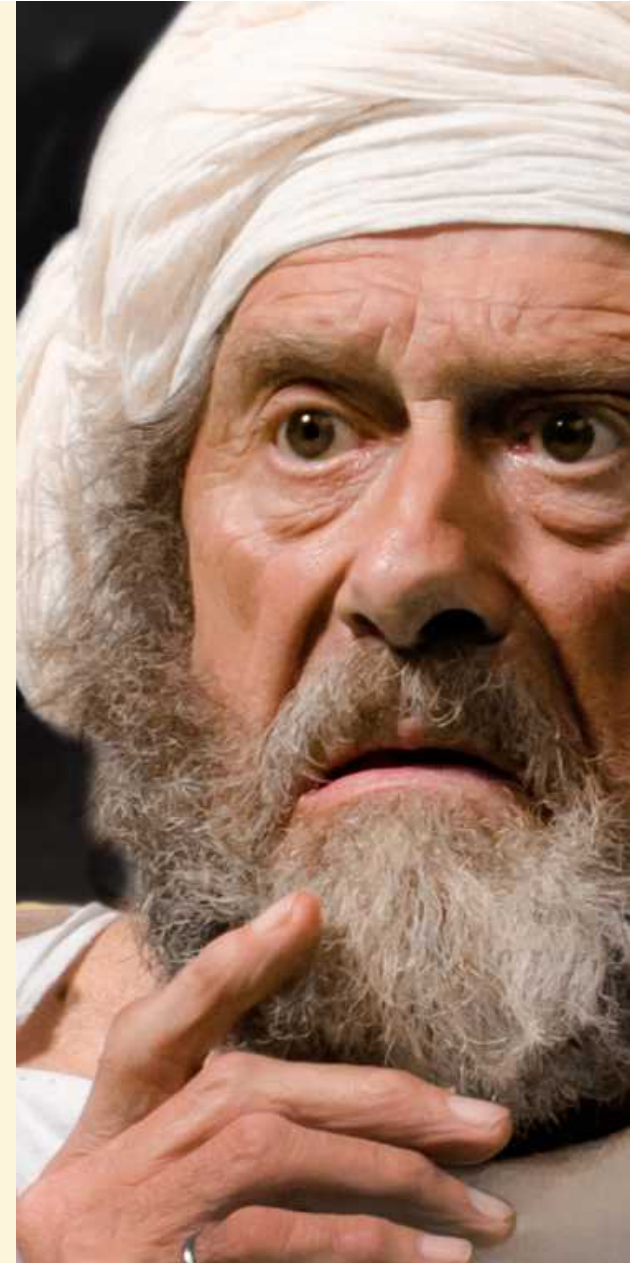
【ヤコブの養子とされるヨセフの息子たち】 創 48:1

■ 床に伏せたヤコブを、ヨセフは二人の子マナセとエフライムを連れて見舞った。

■ イスラエルは、力をふりしぼって床に座り、ベテルの荒野で与えられた主の約束をヨセフに告げた。『わたしはあなたに多くの子を与えよう。あなたをふやし、あなたを多くの民のつどいとし、またこの地をあなたの後の子孫に与え、永久の所有としよう。』

■ ヤコブの提案は、ヨセフの二人の息子を直接、自分の養子にすることだった。これによって、ヨセフは、長子として二倍の相続を受ける。

■ 愛する妻ラケルの子を多く残したいという思いも。



【長子権の祝福】 創 48:7～

- 老齢で目のかすんでいたイスラエルに、ヨセフは、二人の息子を近寄らせた。
- イスラエルは、ヨセフの子らとの出会いを喜び、主を伏し拝んだ。
- そして、二人の子マナセとエフライムの上に、手を交錯して置き、長子権の祝福をささげるべく、祈り、神に呼びかけた。
「私の先祖アブラハムとイサクが、その御前に歩んだ神。きょうのこの日まで、ずっと私の羊飼いであられた神。」



【主の御使いによる祝福】 創48:16～

「すべてのわざわいから私を贖われた御使い。*この子どもたちを祝福してください。私の名が先祖アブラハムとイサクの名とともに、彼らのうちにとなえ続けられますように。また彼らが地のまなかで、豊かにふえますように。」

* 贖い主なる御使い ...受肉前のメシア、キリスト。

■ 神ではない天使へ祝福を祈ることはありえない。

■ ベテルで見た天地をつなぐ梯子の幻。

ヤボク川での神との格闘。

■ ヤコブの人生を導いたのは、常にキリストであり、ヤコブの命は、キリストに贖われた命。



【マナセとエフライムの祝福】 創48:13～

■ ヤコブの権威を示す右手が、交差して弟エフライムに、左手が兄マナセに置かれていた。エフライムの子孫が、後により大きな祝福を受けることが予告された。

⇒ユダと並ぶイスラエルの二大民族に!!

『神があなたをエフライムやマナセのようになさるように。』

■ 祝福の後、ヤコブは、イスラエルが主によって再び約束の地に返される時がくると告げた。

■ シメオンとレビの蛮行によって得たシェケムが、ヨセフに与えられた。



IV. ヤコブの遺言

創世記49章



【12部族への預言】 創 49:1

ヤコブはその子らと呼ばひ寄せて言った。「集まりなさい。私は終わりの日に、あなたがたに起こることを告げよう。ヤコブの子らよ。集まって聞け。あなたがたの父イスラエルに聞け。」

- ヤコブは、12人の息子たち全員を呼び寄せ、その子孫の歩みについて預言した。
- 始祖である息子たちの性質が、部族の性質として受け継がれていく。



【主な部族の預言】

■ 長子ルベンは、父の側女ビルハと寝て、父の権威を得ようとして、反逆したために、長子権を失った。

■ シュケムで妹の復讐に大虐殺を起こした、次男シメオン、三男レビは、まとまった土地を相続することができなくなった。

⇒レビは、後に、祭司の一族となる。



【ユダへの預言①】創 49:8～9

ユダよ。兄弟たちはあなたをたたえ、あなたの手は敵のうなじの上であり、あなたの父の子らはあなたを伏し拝む。

ユダは獅子の子。わが子よ。あなたは獲物によって成長する。雄獅子のように、また雌獅子のように、彼はうずくまり、身を伏せる。だれがこれを起こすことができようか。

- 悔い改め、命がけのとりなしをしたユダ。
- ユダ族は、後に最大最強の部族となる。
- 獅子は、メシアの象徴。勇敢な王ダビデを輩出し、その子孫にメシアが誕生する。



【ユダへの預言②】創 49:10～

王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。ついにはシロ*が来て、国々の民は彼に従う。

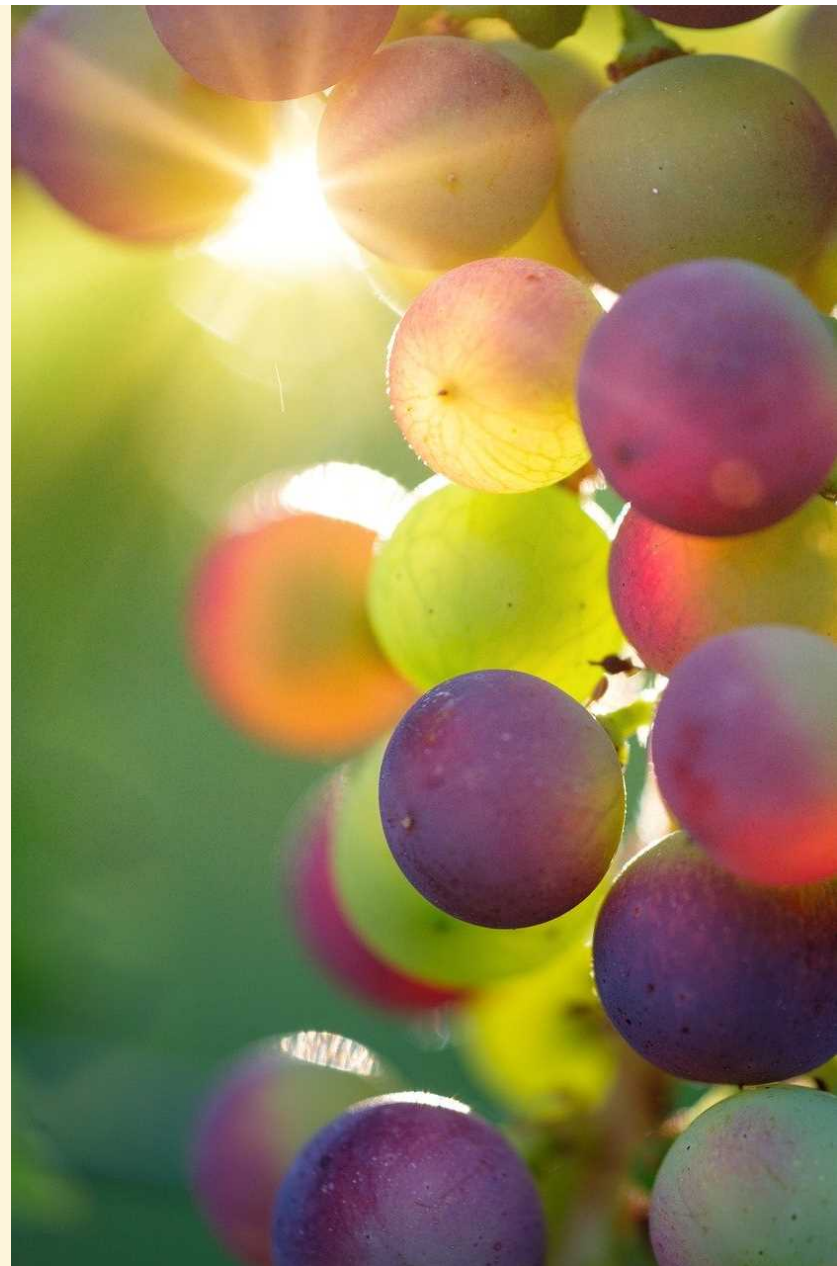
彼はそのろばをぶどうの木につなぎ、その雌ろばの子を、良いぶどうの木につなぐ。彼はその着物を、ぶどう酒で洗い、その衣をぶどうの血で洗う。その目はぶどう酒によって曇り、その歯は乳によって白い。

■ユダ族が代々王座を継承。

*シロ ...“統治権を持つ方” メシアの称号。

*ろば ...平和の王・メシアの象徴。

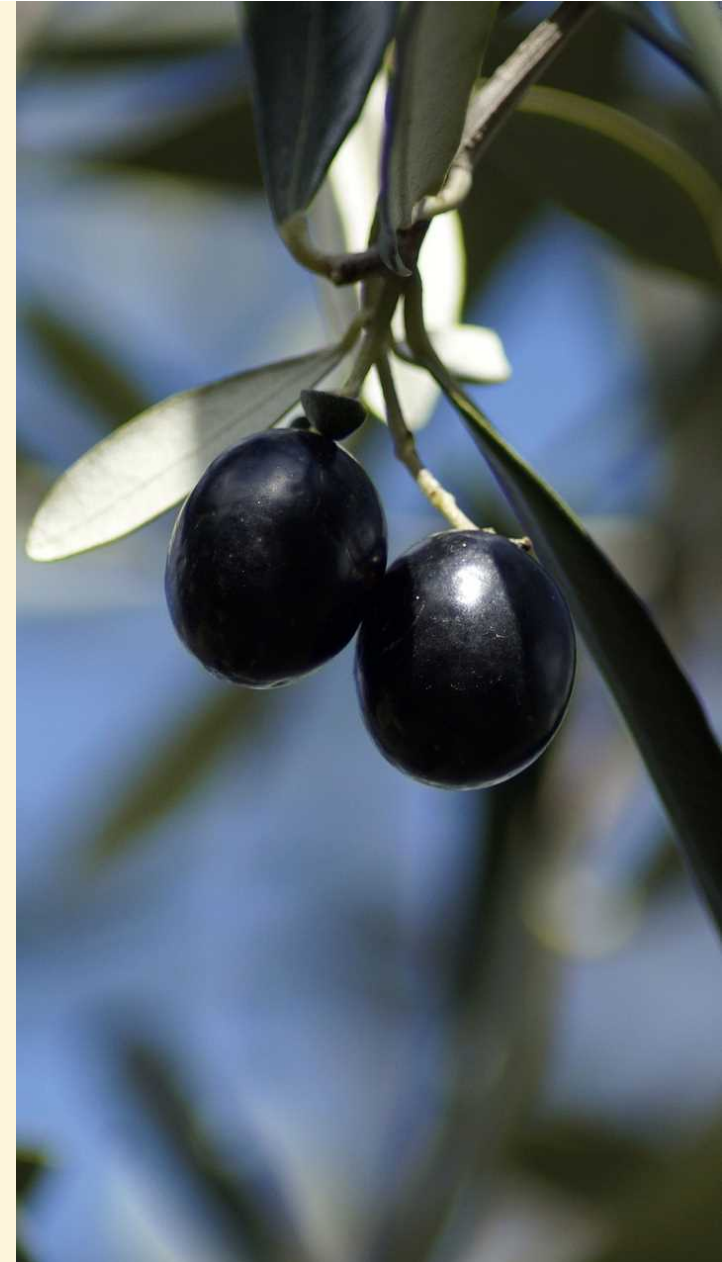
■葡萄酒は、豊かさの象徴。



【ヨセフ(マナセ・エフライム)の預言】 創49:22～

ヨセフは実を結ぶ若枝、泉のほとりの実を結ぶ若枝、その枝は垣を越える。弓を射る者は彼を激しく攻め、彼を射て、悩ました。しかし、彼の弓はたるむことなく、彼の腕はすばやい。これはヤコブの全能者の手により、それはイスラエルの岩なる牧者による。

- ヨセフが、幾多の試練を経て、力ある座につけられたように、ヨセフ族も、数々の戦いをくぐり抜けながら、歩んでいく。
- ヨセフ族を導くのは、ヨセフを導いた主ご自身。



イスラエルの祝福の順番と内容 創49章

★レアの子★

- ①ルベン ...長子権を失う
- ②シメオン ...土地のない部族
- ③レビ ...土地のない祭司
- ④ユダ ...メシア誕生の家系

⑩ゼブルン ...後のガリラヤに
“異邦人のガリラヤは栄光を得る”

⑨イッサカル ...豊かな地で奴隷

★ビルハによるラケルの子★

⑤ダン ...偶像礼拝に陥る

★ジルパによるレアの子★

- ⑦ガド ...勇敢な部族
- ⑧アシェル ...豊かな農地

★ビルハによるラケルの子★

⑥ナフタリ ...12弟子の出身地!!

★ラケルの子★

⑪ヨセフ ...長子権。繁栄。

⑫ベニヤミン

...勇士の家系。

サウル、エステル、パウロ

【ヤコブの最後の願い】 創49:29

「私は私の民に加えられようとしている。私をヘテ人エフロン畑地にあるほら穴に、私の先祖たちといっしょに葬ってくれ」

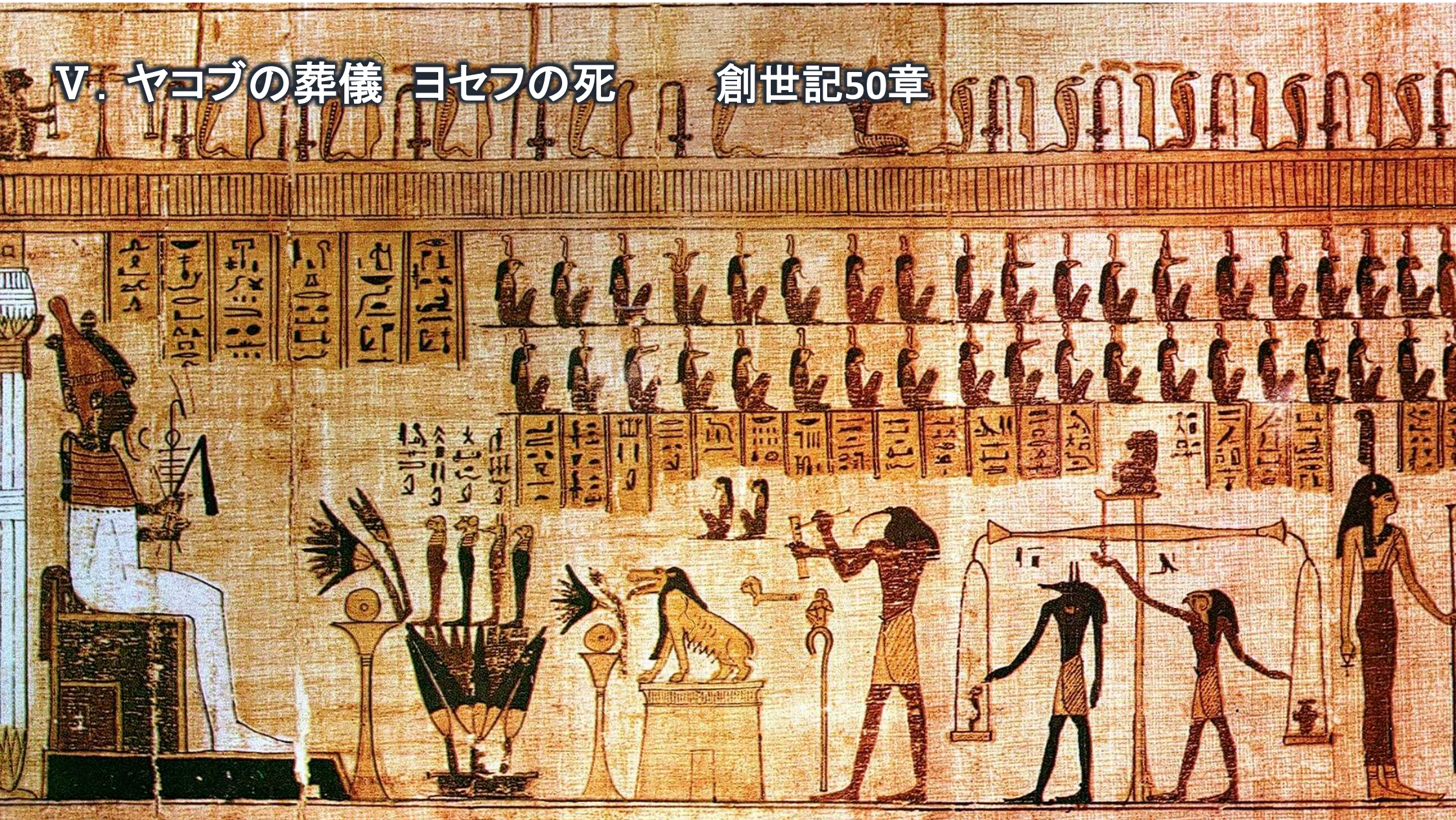
■ アブラハムが、妻サラを葬るために買った唯一の土地。マクペラの墓地。アブラハムも、イサク、リベカ、レアも、ここに葬られた。

49:33 ヤコブは子らに命じ終わると、足を床の中に入れ、息絶えて、自分の民に加えられた。

■ 147歳。ヤコブは、波乱に満ちた生涯の最後を、主の約束通り、平穏に迎えた。



V. ヤコブの葬儀 ヨセフの死 創世記50章



【ヤコブの葬儀】 創 50:1～3

ヨセフは父の顔に取りすがって泣き、父に口づけした。ヨセフは彼のしもべである医者たちに、父をミイラにするように命じたので、医者たちはイスラエルをミイラにした。そのために四十日を要した。ミイラにするにはこれだけの日数が必要だった。エジプトは彼のために七十日間、泣き悲しんだ。

- 国を救った首相ヨセフの父ヤコブの死をエジプト中が嘆き悲しんだ。
- ヤコブの葬儀は、国葬として執り行われた。



【ヤコブの葬儀②】 創50:4～

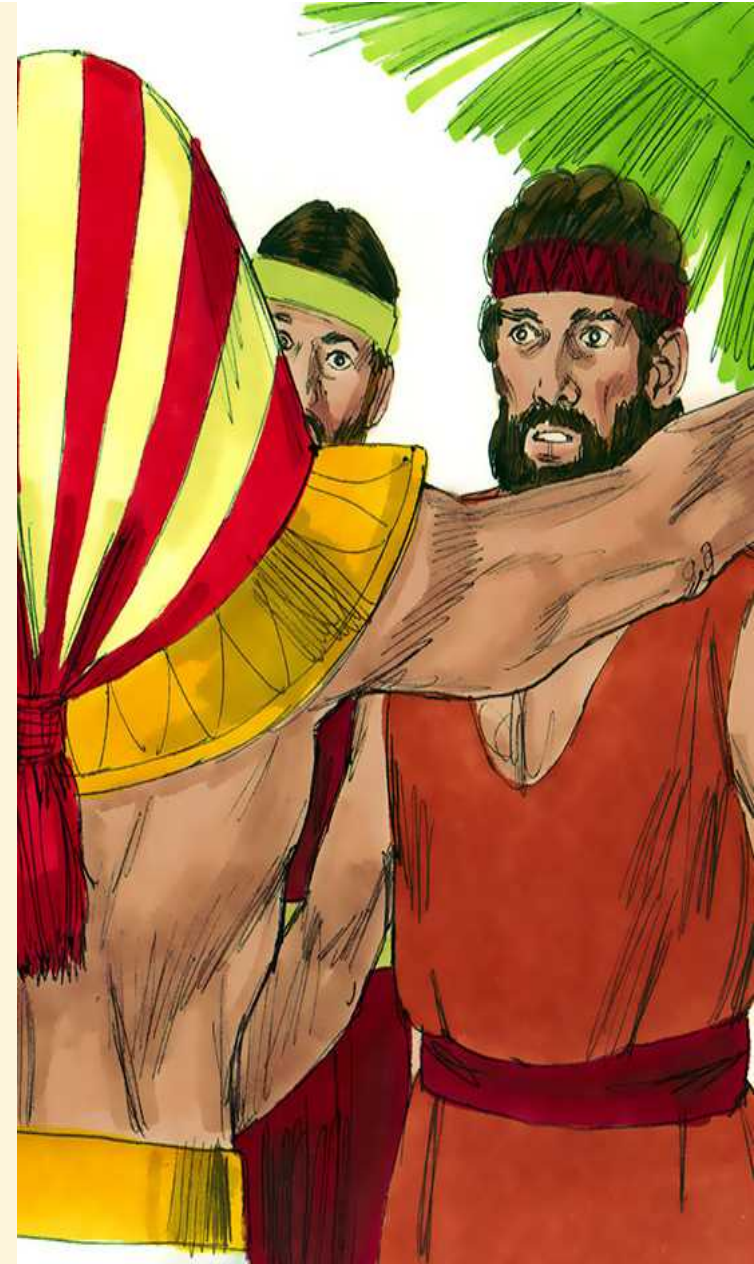
- ヨセフは、パロに、父ヨセフをカナンの地に葬ることを願い出、壮大な葬列がエジプトを出立した。
- ヨルダン川西岸で、エジプト風の壮大な葬儀が7日間に渡って執り行われた。その地に“アベル・ミツライム(エジプトの葬儀)”と名付けられるほどだった。
- ヨセフのミイラは、遺言通り、マクペラの墓地にアブラハム、イサクと共に葬られた。



【兄たちの不安】 創50:15～21

■ 父亡き後、兄たちは、ヨセフの仕返しを恐れ、ヨセフの前にひれ伏し、改めて赦しを請うた。

■ ヨセフは兄たちを慰め、優しく語りかけた。「恐れることはありません。どうして、私が神の代わりでしょうか。あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。ですから、もう恐れることはありません。私は、あなたがたや、あなたがたの子どもたちを養いましょう。」



【ヨセフの死・主の約束を信頼して】 創50:22～26

- ヤコブの死後54年。110歳まで生きたヨセフ。
17歳からの93年間、ずっとエジプト暮らしたかった。
- 子孫にも恵まれ、ひ孫の顔を見ることもできた。

50:24 ヨセフは兄弟たちに言った。「私は死のうとしている。神は必ずあなたがたを顧みて、この地からアブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地へ上らせてくださいます。...そのとき、あなたがたは私の遺体をここから携え上ってください」

- ヨセフは、一族にアブラハムの約束を確認させた。
400年の後、イスラエルは約束の地に再び上る。
- ヨセフの遺体はミイラにされ、後に、ヨシュアによって、約束の地に埋葬されることになる。



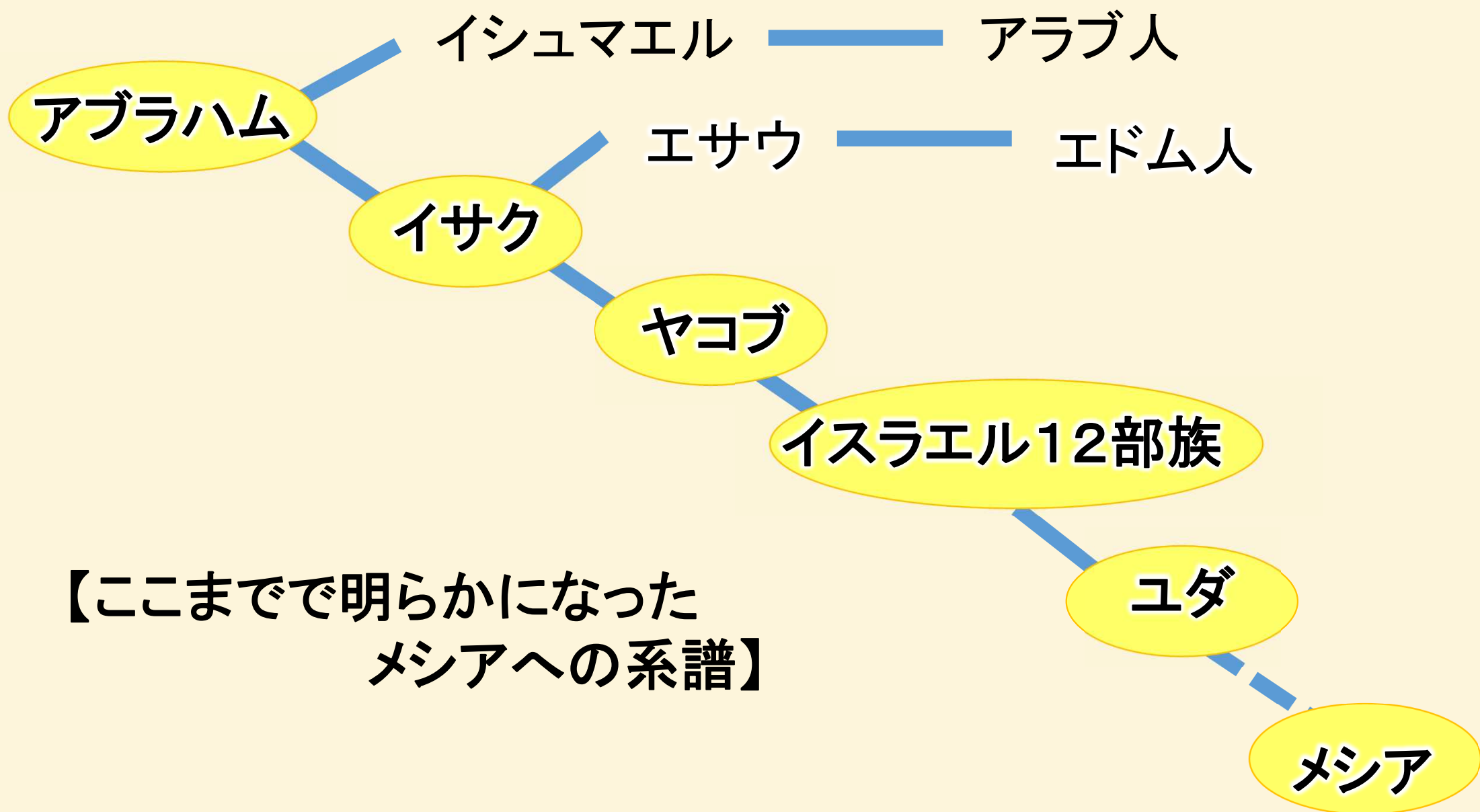
Ⅲ. まとめと適用

神の約束を握りしめて
今この時を歩もう



【長子権を継いだヨセフ、メシアにつながるユダ】

- 主の約束を信じ、共におられる主を信頼して歩んだヨセフ。
ヨセフが長子権を次ぎ、子マナセ、エフライムがヤコブの養子に。
ヨセフは、長子として二倍の祝福を得、子孫の繁栄も約束された。
- ヨセフを売り、墮落したユダは、悔い改め、末弟ベニヤミンのため、父ヤコブのため、命がけでとりなしをした。
そのユダから、最大最強のユダ部族が生まれ、王族が起こる。
⇒そして、そのはるかな子孫から、メシアが誕生する。



【ここまでで明らかになった
メシアへの系譜】

【すべては、主の約束の上に】

- 主が、アブラハムに約束されたのは、子孫が異国で奴隷となり、400年間苦しみながらも、一つの民族として育まれていくこと。
- イスラエルのエジプト移住は、長い苦難の始まりでもある。しかし、ヤコブの目も、ヨセフの目も、その先を向いている。
- 主が、主が建てられる御国に、迎え入れてくださる時が来る。
- 彼らが生涯を通じて体験的に知ったのは、神の約束の確かさ。アブラハムに約束された、子孫の繁栄と、土地の授与、そして、メシア誕生。このすべてが完全に成就される時が来る。

【アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフの信仰に学ぼう】

■ 彼らは皆、苦難を経験した。長い忍耐の時を過ごした。

しかし、神は、いつも彼らと共におられた。

どれほどの時を経ようと、神の計画は必ず成就すると彼らは知った。

■ 今、私たちが経験している苦難は、始まりに過ぎないかもしれない。

しかし、主がともにおられ、私たちを導いてくださっている。

■ 主イエスは、再び来られ、王の王として世界を治められる。

病も涙も、消し去られる時が来る。待ち望みつつ、今を歩もう。

■ 忍耐とは、神の確かな約束を握りしめるときに初めて与えられる力。

神のご計画の全貌を、この時にあって、身に染みこませていこう。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

ヤコブもヨセフも、ながい苦難(くなん)の中で、

主を信頼(しんらい)し続(つづ)けました。

主のご計画(けいかく)の確(たし)かさをも味(あじ)わわせてください。

忍耐(にんたい)の時(とき)にも、希望(きぼう)を持って、

日々(ひび)を歩(あゆ)んでいくことができますように。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈(いの)ります。

アーメン」